

JICA研修「自然災害防災研究コース」 エクアドル、トルコなどから 6人が参加

防災科学技術研究所では、海外への研究者派遣、外国人研究者の招聘、国際機関への協力など、防災科学技術に関する国際交流を積極的に推進しています。その一環として、国際協力事業団（JICA）が行う海外への技術移転の事業にも協力しています。平成1年度に行われた前回のJICA研修に引き続き、本年度は第2回目の実施となりました。

社会基盤整備が遅れている開発途上国にとって、自然災害に起因する物的・人的損失は円滑な経済発展の脅威となり、自然災害の防止・軽減に資する防災技術開発とこれに携わる研究者・技術者の育成・強化が急務となっています。開発途上国の防災研究者、科学者及び技術者の目標は、それぞれが選択した研究課題において基礎的、探索的研究に参加し、重要かつ最新の知識と技術を習得し、さらに各課題で求められている研究の本質についての認識を深め、研究の方法論及び研究手法を習得することです。



研修旅行、実大三次元震動破壊実験施設見学

今回のJICA研修「自然災害防災研究コース」は、期間が平成13年11月12日から平成14年2月23日までの約3カ月で、研修員はエクアドル・ペルー・トルコから2名ずつで合計6名が参加し、9名の防災科研の研究者が研修員の指導にあたりました。

また、各研修員の専門研究テーマに即した個別研修旅行も行われました。例えば、「洪水予報システムの調査」や各地の「地震観測点施設の調査」などに積極的に出かけ、充実した研修となりました。

最近、世界各地で大きな自然災害が発生して被害をもたらしており、それぞれの研修員は、研修成果をとおして自国の自然災害軽減に貢献したいとの思いを強く持ち、熱心に受講し、その成果として研究報告発表会では気合の入った発表や質疑応答が取り交わされました。そして、指導員の熱心な指導や助言に感謝し、非常に有意義だったという声が多く聞かれ、中には研修課題等をもっと増やして欲しいとの希望もありました。

今回の研修をとおして、指導員をはじめ多忙の中で尽力された関係者の方々に敬意を示すとともに、各研修員の帰国後の更なるご活躍及び研究実績の自国への還元を期待しているところです。

（問い合わせ先：企画部企画課）